

# 野の花新聞

No.1 6月10日号 「原点」

みなさま、こんにちは。

「野の花」の みなかた あきこ です。

5月10日に神戸・北野でヒーリングサロンをオープンして、はや1ヶ月が経ちました。

開店前のあわただしさや各種不安、開店後の出会いや交流、など、お話ししたくてたまらないことが、山のように積もってきています。

そこで、私・南方晶子をもっと知っていただき、私自身の思いも外へ出してやりたいと、月1回 新聞を発行することを思いつきました。思いつくと、後先考えずにすぐ行動する人間なので、早速これを書いているという次第です。

いろんな角度から見たありのままの私を、勇気を出して発信していくこうと思っています。



さて、記念すべき第1号は、ヒーリングサロンを開くことになった原点についてお話ししなければ。

子どもの頃から人間が苦手でした。

優秀だった兄が二人とも若くして亡くなり(長兄は16歳、次兄は19歳でした。私は年が離れていたので、4歳・10歳の時です)両親の私のへの思いは複雑だったようです。

兄たちと比べて出来が悪い、本当はいらない子だったと軽口でよく言われました。

やさしかった兄たちを失って心を閉ざしてしまった私には、受け止め難い言葉でした。

私は、兄の代わりに死ぬべきだったんだなと感じながら育ってしまったのです。

人間は私を傷つける存在、私は自分をありのまま出してはいけない…いつもそう思っていました。

苦しくて、様々なセラピーやカウンセリングを次々受けました。

けれど、受けければ受けるほど、自分は劣った存在だと思い知らされるのです。

セラピストは 高い所から教え諭す人のようでした。

ヒーリングに出会った時、ヒーラーは私の魂・スピリットのそばに来て 輝く私に触れさせてくれたのです。

かけがえのない大切な存在、幸せに生きるために生きてきたのだと スピリットは告げていました。

どの人のスピリットも 輝いています。

精神や感情や身体がどんなに傷ついていても、スピリットは輝き続けているのです。

そのことに 気づかないまま苦しんでいる(ほんの5年前までの私のように)方々に、輝きを取り戻すお手伝いができたら どんなにいいだろうと 思い始めたのが

サロンを開く原動力になりました。

またの機会に もっと細かいところまで

お話しできるといいなと思います。

次号は7月10日発行です。

テーマは 思いつくまま……  
よろしく お付き合いくださいませ。



南方 昴 (みなかた すばる)

ミニチュアダックス 11才

おとなしくて気がいいので、同居ねこ達に布団代わりに使われている。

他、ねこ各種います。

どうぞ期待！